

## 令和5年度 浜松市教育研究会 国語科研究部

### 1 研究テーマ

#### 「言葉の力」を育てる魅力的な単元の創造

### 2 研究テーマ設定にあたって

学習指導要領が全面実施されて小学校は3年目、中学校は2年目となり、各教科等では、資質・能力の育成を目指し「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が図られている。

全国学力・学習状況調査の浜松市の結果をみると、質問紙調査では、「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思いますか」などの設問においても、肯定的な回答の割合が高い数値を示し、国語科の学習の重要性をしっかりと認識している結果が得られた。しかし、昨年度同様「国語の勉強は好きですか」という質問には、否定的な回答をした子供が半数近くいた。「国語の学びは大切で将来役に立つと思うけれども国語の勉強は好きではない」という今の状況から、どうしたら国語の本質的な楽しさや奥深さを実感し、「国語が好き」「国語の学びが好き」だとう子供が増えていくことになるのだろうか。

国語科研究部では、言語活動を通して達成感や成就感を味わわせ、実生活に生きて働く「言葉の力」を育てる授業の創造を目指してきた。国語科において育成を目指す資質・能力を身に付けるためには、「言葉による見方・考え方」を働かせることが大切であることを実感した。そのためには、言葉に意識が向くような意図的な問い合わせや言葉へのこだわり、言葉を手掛かりにして考え、試行錯誤するような言語活動の設定が重要になる。普段何気なく使っている言葉について、改めて問い合わせることで、子供たちが言葉を見つめ直し、言葉への自覚を高めることができるのでないかと考える。

以上のこと踏まえ、令和5年度の研究テーマを「『言葉の力』を育てる魅力的な単元の創造」とし、子供たちが国語科の授業を通して学ぶことの楽しさや必要性を感じながら、主体的・対話的で深い学びとなる単元や授業を構想し、教師がねらいとする国語科における資質・能力=『言葉の力』が身に付くようにしていきたい。そのための視点として、次の3点を設定した。

- ① 付けたい力が明確で、子供たちにとって魅力的な学習課題を設定すること
- ② 単元の中に、子供たちが主体的に学びを調整できる場面を設定すること
- ③ 学習を通して、言葉の担い手としての成長や変化を子供たち自身が実感できるようにすること

子供たちが国語科の魅力的な学習課題に、主体的に取り組むことで、「この前学習したことが、今度の国語科の学習や他の教科、生活の中でも使えた。」「交流を通して、自分の考えが深まったり変化したりした経験を、生活の中でも生かせそうだ。」などの成長や変化を実感できるような国語科学習を目指す。そして、私たち教師も国語科の単元のもう一つ魅力を確認しながら日々の実践を重ねたり、小中連携を図るための合同研修をしたりすることで、互いに学び合い、そして高め合い、魅力ある単元構想、魅力ある授業づくりを目指していきたい。